

No.15

三次地区医師会開業医の先生をご紹介します。

佐竹 医院

特 徴

田畑や山に囲まれた当医院は、毎日方言や笑い声が飛び交います。敷居の低い、地域密着の医療を目指し、近隣の介護施設等としっかり連携をとったり、訪問診療に重点を置き、患者様へ安心をお届けできる様にスタッフ一同笑顔で頑張っています。

医療センターへひと言

いざと言う時、迅速かつ丁寧に対応して頂き、いつも心強い思いです。紹介患者様からは、検査時に苦痛が少ないとの声をよく耳にします。今後もしっかり頼らせて頂きたいと思えます。よろしく願い致します。



先生とスタッフの皆さん

取材後記

緑に囲まれ空気がとても綺麗に感じました。スタッフの皆様にとっても親切に対応して頂き、楽しく写真撮影する事ができました。本当にありがとうございました。今後ともよろしく願い致します。



診療受付時間

月・火・金/ 9:00～12:30
午後は予約の方のみ
水・木・土/ 9:00～12:30

休 診 日

日曜日・祝日

診療科目

内科・眼科
(ただし眼科は土曜日の午前中のみ)



三次市和知町2852-1
Tel:0824-66-1013
Fax:0824-66-3116



理 念

全人的医療を目指します。地域密着型の医師会立病院としてかかりつけ医と連携し、患者様に満足の頂ける医療・ケアを行います。

新人職員紹介



4月から社会福祉士として勤務させていただくことになりました。

三次地区医療センターの職員として自覚と使命感を持ち、患者様やご家族の心に寄り添い、お悩みや課題の解決に向けて力になれるような相談員になっていきたいです。

仕事の事などでいろいろとお聞きすることもありますが、一生懸命に努力して仕事に励みたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

地域連携・医療相談室 社会福祉士 正田 大輔

4月から理学療法士として勤務させていただくことになりました。

社会人一年目で不安なこともあります。患者様が必要とすること、それに対し自分に何が出来るかを常に考え行動し、地域医療に貢献できるよう、元気に明るく、向上心を持ち精一杯努力していきます。よろしくお願いいたします。

リハビリテーション技術科 理学療法士 野地 省吾

新職員を迎えて

春は三寒四温で訪れるとはいえ最近の気温差には著しいものを感じてしまいますね。

桜も咲きごろを戸惑いながらも、今年は一段と綺麗に咲き魅せてくれました。そんな満開の花の下、4月2日三次地区医師会入社式が執り行われ、三次地区医療センターは7名の新しい仲間を迎えることができました。職種は理学療法士、看護師、管理栄養士、社会福祉士、保育士です。多職種で協働しながら、より一層地域医療に貢献していけるよう今年度もがんばって参りますのでよろしくお願いいたします。

三次地区医療センター 看護部長 福島 貴子

奨学生募集!

三次地区医師会には、将来医療職を目指す学生を応援する奨学金制度があります。医療従事者養成校に在学中であれば1年目から対象となります。私達と一緒に医療センターで働きませんか？（職種や詳しい内容につきましては担当者までご連絡下さい）

担当：三次地区医療センター 総務課 吉田 TEL：0824-62-6318

三次地区医療センター

〒728-0013

広島県三次市十日市東三丁目16番1号

TEL.0824-62-1103

FAX.0824-62-7341

E-mail:info@miyoshi.hiroshima.med.or.jp

ホームページ:http://www.miyoshi.hiroshima.med.or.jp/



新任医師



高田先生

4月より三次地区医療センターに勤務させていただくことになりました、高田(旧姓:田中)と申します。私は、生まれも育ちも庄原市(旧比婆郡比和町)です。子供のころ輝いて見えた、また早くそのようになりたいと憧れた、そして、あの頃の活気ある県北地域を支えてこられた方々が、現在、後期高齢者となられています。そのような方々を含めまして、県北地域の皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



飯尾先生

4月より医療センターで勤務させていただいております消化器内科の飯尾と申します。地域の皆様のお力になれるようがんばりますのでよろしくお願いいたします。



井口先生

4月より三次地区医療センターで勤務させていただいております、リハビリテーション科の井口と申します。三次地区の皆様のお力になれるよう精一杯頑張ります。これからよろしくお願いいたします。

当院が浸水時緊急退避施設として選定されました

三次市内において大規模な水害が発生した場合に、浸水から逃れるため、緊急的に退避する施設として当院が選定され、4月10日、三次市役所にて協定締結しました。洪水の浸水危険が迫った場合の緊急一時的な退避場所として当院の屋上に退避して頂く事が可能となりました。



MRI装置をバージョンアップしました

この度、13年使用したMRI装置のバージョンアップを行いました。

バージョンアップに伴い、撮影した画像は高精細になり、以前の装置では見えなかったものまで描出されるようになりました。検査の時間も撮影条件の最適化により品質が向上し、検査の実施時間が短くなりました。また、部屋の雰囲気も明るくなり、床を木目にする事であたたかみのある空間となっております。

新しくなった装置は患者様の身体的負担が軽減され、検査の質も良くなりました。

画像診断技術科 科長 福重 栄治



のどを鍛えて 誤嚥性肺炎を予防しましょう

のどの体操編

前は、誤嚥性肺炎予防のために日常生活の中で気を付けることをお届けしましたが、今回は「のどの体操編」として、飲み込み力をつけるための、のどのトレーニングをご紹介します。

飲み込み力をつけるトレーニングには、「のどの筋トレ」、「呼吸トレ」、「発声トレ」の大きく3つの柱があります。以下に、それぞれの柱の代表的なトレーニングメニューを紹介します。

コツは、ハードルの低めのメニューを1日数分でもいいので、毎日行うことです。もちろん、体調の悪い日には休んでもかまいません。軽いメニューを長くこつこつと続けていくことが、着実に飲み込み力の維持・向上につながります。

のどの筋トレ

嚥下おでこ体操

おでこに「手根部(手のひらの下部)」を当てて、おでこで押し合いっこする体操です。頭のほうはおへそをのぞきこむような恰好で下方向へ強く力を込めていき、手根部のほうは上方向へ力を込め、頭に負けないくらいの力でおでこを押し戻します。そして、押し合っている状態を5秒間キープ。これを5~10回繰り返しましょう。



呼吸トレ

風船ふくらまし・吹き戻し

風船をふくらますには、わりと肺活量が必要です。肺活量を上げることで、誤嚥を起こしそうなときにもしっかり咳がで、気管に入ることを防ぐことができます。

「1日に1回、1個ふくらませる」から始めて、「1週間に1回、連続3つふくらませる」といったように、少しずつふくらます回数を増やすなど、自分なりのルールを決めて、風船ふくらましトレーニングをおこなってみてください。

風船をふくらますのがきつい場合は、「吹き戻し」をふくのもおすすめです。



発声トレ

カラオケ

カラオケは飲み込み力をキープしていくには非常に有効な手段です。しっかり声を出して歌っていると、呼吸器が鍛えられ、嚥下機能の力を握っている「のど仏の筋肉」をたいへん効率よく鍛えることができます。

注意:あまりに張り切りすぎて歌ってばかりいるのは、のどを痛めてしまいます。あくまで「適度に楽しく歌う」ことを心がけてください。



参考図書 西山耕一郎 『肺炎がいやならのどを鍛えなさい』

リハビリテーション技術科
言語聴覚士 井上 昇子